

# R I weekly レポート

株式会社ライスアイランド

〒500-8322

岐阜市香取町3-38

電話 058(253)0310

FAX 058(252)5115

2003年2月17日

vol.8 担当 島田

～ シリアル・ルネッサンス～

<http://www.riceisland.co.jp>

## 日本のトレーサビリティの今後

先週のRIレポートでお米のJAS認証が抱えている問題を解決する方法は、トレーサビリティとお話しました。

日本では、これからトレーサビリティのガイドラインが農水省によって決められることになっていきます。本来なら民間主導で行うべきものを政府がガイドラインを作ることがいかにも日本的で、ハードだけが組み立てられつつあります。

トレーサビリティで大事なものは、生産者がトレーサバックしたことが正確かどうか、第三者によって認証することです。日本のトレーサビリティにおいて、この点が確立できるかどうか問題となっています。

この理由の一つは、国内農家の技術がトレーサビリティに耐えられる水準にないこと。もう一つはカントリーエレベーター・選果場の問題です。選別・出荷を共同で行うことで、ごっちゃ混ぜで分別流通ができないことになってしまいます。

そのような状況の中、イオンは60項目から160項目をチェックする独自のトレーサビリティを導入しました。その厳しいチェック内容に納入業者、生産者は真っ青になってしまっていると聞いています。今後、トレーサビリティがスーパーの産地の囲い込みと運動することになる可能性も考えられます。

お米のトレーサビリティについてはモデルが存在しませんので、日本独自の基準作りから始めなければなりません。穀物は味などによる価格差が小さいのでトレーサビリティの必要性がありませんが、日本では、お米のおいしいさへのこだわりが強く、産地・品種などで価格差がありますので、トレーサビリティの必要性が出てきます。

一方、DNA鑑定が管理強化が流通の歪を生んでいます。売れるものに生産される品種が限られることが多く、多様な特性を持った在来種や、その土地の環境に適合した栽培の品種が栽培できなくなりはじめています。そのことは米の栽培に適さない寒冷地など、栽培放棄地の拡大を加速しています。

新潟のコシヒカリなどの入札価格が上がり、かたや値下がりして余ってしまう米などへの偏りや、認証を利用した規制強化も進んでいます。トレーサビリティにより、多様な産地・品種のお米が流通することが期待されます。

ただヨーロッパのトレーサビリティの翻訳だけではなく、生産者・流通業者・消費者・資材業者・検査機関、それぞれが話し合うことが重要となります。農家の世代交代に伴い、産地開発に取り組み始める気持ちを持つプロの農家の登場が期待されます。

## 玄米 & 雑穀の「おいしい組み合わせ」

### お役立ち!情報ボックス

健康によいとして注目を浴びる発芽玄米。分かってはいるものの「玄米は固くてまずい、食べにくい」と感じる事が多く、普段の食事に取り入れようとしても長続きしないようです。

そこでちょっとしたコツをご紹介します。玄米の歯ごたえとパラパラ感を生かして、チャーハン・カレーに使うのも手ですが、もっと簡単な方法があります。相手を「もちもち」させるきび・あわと合わせて炊飯器で炊くだけ！さらに栄養もアップします。

<参考小売価格>

¥398

規格:420g C/S:10

POS:4900390386844



来週のRIレポートは、「MOBACSHOW(モバックショウ)の報告」です。2/24日のお届けです。

不要の方はチェックしてご返信ください。

FAX 058-252-5115 御社名

TEL 担当者様名